

県内2カ所目となる空港「岩国錦帯橋空港」が、昨年12月13日、岩国に48年ぶりに再開され3カ月が経過しました。開港1カ月の平均搭乗率は76%と順調な滑り出しを見せています。

岩国での民間空港のスタートは、大戦後の昭和26(1951)年に国際飛行場に指定されたことに始まります。当時は、羽田とともに2カ所しかない国際空港で、昭和28年の着陸機数は、東京国際(羽田)、大阪、小牧(名古屋)、板付(福岡)に次いで5位。主要空港の一つでした。

昭和23年には、マッカーサー元帥の来賓として招かれたヘレンケラーが、昭和29年には、マリリン・モンローと野球選手のジョー・ディマジオが日本への新婚旅行の途中に、岩国に降り立っています。

今回の開港により、首都圏から県東部への利便性は大幅にアップ。地域の産業や観光などを活性化する起爆剤として期待されています。

平成15(2003)年以降の県東部への観光客の推移をみると、県外から県東部地域への観光客数は毎年350万人前後で推移しています。錦帯橋架け替えが完了した平成16年は、前年の331万人から391万人と18%伸びています。

このうち、関東からの観光客数は、錦帯橋架け替え完了の翌年に前年の32万人から45%増の47万人と大きく伸びた後、平成22年まで毎年50万人前後で推移しています。

平成23年は、東日本大震災の影響で県外・関東ともに大きく減りました。岩国錦帯橋空港開港による今後の集客力アップに期待したいものです。

### 山口県東部地域への観光客数

